

丸田窯にいったよ！！

私たちは、丸田延親さんに黒牟田焼のことで教えてもらいました。

黒牟田焼は、420年前から黒牟田地区で作られていました。主にとっくりやどびんなどの生活用品を作っていたそうです。昔は、50～60軒の民家のうち30軒ぐらいが焼き物を作る家だったそうです。とても盛んだったことがよくわかりました。



この焼き物は湯呑です。もようは、きれいですね。みんなが、持ちやすいように、くぼみをつけているそうです。

ほらこのとおり・・・・・・・・
焼き物は焼くと少し縮むのですね。

物原山は、昔、そこにかまがあって、その近くに失敗した焼き物を捨てていた山だそうです。何百年も前の焼き物が捨てられていて、国の重要文化財になっています。

物原山には、地面が、見えにくいぐらい焼き物の破片が、ちりばめられていました。どのくらい前の焼き物の破片があるのだろう・・・・・・・・



これは登り窯です。

昔は、窯の温度を見るために、竹を割ったものを窯の中に入れて、ゆう薬がとけたかどうか判断されていたそうです。

この焼き物は、ろくろではできないので、板をはりあわせて、形をつくられたそうです。

この焼き物の模様は、うちはけ目もようというそうです。

きれいですね。



～感想～

物原山には、たくさんの焼き物のかけらがあってびっくりしました。

他にも、焼き物は、やくと、小さくなることや、焼き物もいろいろな工夫がされていることが、びっくりしました。